



鶴田町長
相川 正光

年頭にあたって

謹んで年の初めのお祝いを申し上げます。皆さまには、すがすがしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、我が国は本格的な人口減少局面に突入しております。当前においても、2010年に1万4千人余りの人口が2040年代には9千人を割り込むという推計がなされております。このため、2040年に1万人程度の人口を維持し、持続可能なまちづくりを推進するため、「鶴田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」および「鶴田町人口ビジョン」を策定しました。総合戦略では、これまで講じてきた少子化対策や高齢者福祉の充実、健康増進などの施策に加え、観光振興、生活基盤の整備推進、基幹産業である農業などの取組をさらに加速させ、活力ある誰もが住みたいと思えるまちづくりを進めてまいり所存であります。

さて、昨年の農業の概況は、リンゴは、天候に恵まれたことから良好な出来栄となりました。しかし、10月1日の低気圧や同月8日の台風23号から変わった温帯低気圧の通過に伴う強風で、一部の園地では収穫を目前にしたリンゴが落下する被害に見舞われましたが、価格は上物では一昨年より高値で取引され、堅調に推移しました。

スチューベンぶどうも同様に強風による被害がありました。が、出来栄は良く、10月10日から12日までの3日間、道の駅つるたにおいて、第3回スチューベンぶどう祭りを開催したところ、悪天候にもかかわらず県内外から約3万4千人もの人出で賑わいました。

また、スチューベンぶどうは、長期保存ができる品種であり、最長3月までの出荷が可能であるため、「冬ぶどうつるたスチューベン」として、私たちが先

頭に立ち、トップセールスを展開し、県外における新たな販路開拓に取り組んでおります。

お米では、県産米初の特A品種「青天の霹靂」の収穫が、昨秋当町で県内の先陣を切って行われました。「青天の霹靂」は、マスコミで報道されているとおり、県内外の各方面において好評を博しており、大変喜ばしいニュースとなりました。

「青天の霹靂」は、27年産米では県内の作付面積約552ヘクタールのうち、11パーセントが当町の生産者により栽培されており、今後の動向に期待しております。

農業を取り巻く情勢は、TPPの大筋合意や主食用米の生産調整、慢性的な後継者不足などさまざまな要因が相まって、依然、先行きは厳しいものと考えておりますが、各関係機関等と連携を強化し、これら当町自慢の農産物を基軸として、地域の

活性化を図ってまいります。

また、交流事業では、昨年2月にさつま町合併10周年記念式典、3月には中学生大使フットリバー訪問に私自身が参加し、今後の交流について一層の交流を深めることを約束してまいりました。8月には「つるた&さつまにぎりまんま塾2015」で当町の小学生らがさつま町を訪問し、現地の小学生と双方の伝統文化を学びながら交流を深めております。子どもたちは、この貴重な体験を通して、多くを学び、たくさんの方々ができたようです。今後も子どもたちには、こういった交流の機会を設け、さまざまな経験を通して、広い視野を持った、将来の鶴田町、ひいては日本を担う人材の育成に努めて参ります。

昨年は、当町が合併してから60年という大きな節目の年でありました。去る9月27日にさまやかながら鶴田町合併60周年記念式典を開催し、これまで町政運営に寄与された方々に感謝状を贈呈させていただきました。町政運営が厳しい折でも知恵を絞り、苦難を乗り越えてこられた先人のご苦労とご功績に対し、改めて感謝いたします。

今後も、町民の皆さまとともに知恵を出し合い、安全で安心して生活できるよう、「健康で共に支え合う住みよいまちづくり」を実現するため、誠心誠意努力してまいりますので、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに本年も皆さまにとりまして健やかで幸多い年でありましようお祈り申し上げ、新年のあいさつといたします。



鶴田町議会議長

出町 豊

小さくても暮らしやすい町を

明けましておめでとうござい
ます。

町民の皆さまには、心新たに
希望に満ちた新春をお迎えのこ
ととお慶び申し上げます。平成
28年の年頭にあたり、町議会を
代表して、謹んで新年のご挨拶
を申し上げます。

昨年を振り返りますと、世界
各国の政治的混乱がますますひ
どくなつてきており、各地で戦
禍が絶えない状況が続いていま
す。また、パリで起こった同時
多発テロ事件に代表されるよう
に、テロ事件が世界の各地で発
生しています。私たちの住む日
本が治安の面では大変行き届い
た国であることに、改めて感謝
したいと思います。

国内政治の大きな出来事と言
えば、やはり安全保障関連法案
の問題であったと思われま
す。この法案については国民の賛否
も分かれるところだと思います
が、かつての安保闘争を彷彿と
させるように、何万人ものデモ

隊が連日、国会周辺を埋め尽く
しました。世界の状況を見た時、
日本は「平和ボケ」と言われる
こともありすが、憲法9条が
日本の平和を守ってきたという
側面は確かであります。政府に
は今後とも国民の合意が得られ
るよう、丁寧の説明をしていた
だきたいと思ひます。

国内の嬉しいニュースとして
は、梶田先生が物理学賞、大村
先生が医学生理学賞と、昨年に
引き続き、二人の日本人研究者
がノーベル賞を受賞していま
す。学者や研究者のみならず、
多くの国民の喜びと励みになる
受賞でした。

町の話題としては恒例となつ
た行事ですが、春には「中学生
大使フットリバー訪問」と「津
軽富士見湖桜まつり」、夏は「町
民ふれあいスポーツフェスティ
バル」と「つるたまつり」、秋
には「町民文化祭」と、多彩な
催しが町民のご協力により実施
されました。町民の皆さまの力

を借りて、町民の一体感を深め
るためにも続けてまいりたい行
事だと思ひます。また、スポー
ツ関連では県民体育大会で総合
10連覇を達成。柔道では女子選
手が全国大会で好成績を収める
など、子どもたちの成長には目
を見張るものがあり、東京オリ
ンピックへの夢を持たせてくれ
ました。

国内交流では、2月に行われ
たさつま町の合併10周年記念式
典に当町議員11名が参加、9月
に行われた鶴田町合併60周年記
念式典にはさつま町議会議員13
名が来町するなど、両町の交流
はますます深いものとなりまし
た。さらに、8月には3泊4日
でさつま町において子どもたち
の交流が行われ、12月には当町
の農業委員会がさつま町での視
察研修を実施しています。今後
は文化・教育や経済面でより交
流が強化されることを期待して
います。

町の基幹産業である農業につ

いては明るい話題がありまし
た。県産米初の特A米である「青
天の霹靂」が、県内のトップを
切つて鶴田町で収穫されまし
た。「青天の霹靂好発進」、「待
望の味、爆買い」などの見出し
が新聞紙面を賑わし、売り切れ
となる店舗が相次いだと報道さ
れ、好評価を得ました。

リングについては春から順調
な生育でしたが、10月に発生し
た二度の強風による樹上損傷の
ため、傷物が多かったのが悔や
まれます。ただし、良品につい
ては相場が堅調で例年に比べる
と高値で取引されているのが救
いとなっています。スチューベ
ンについてもリングと同様、出
来は良かったものの強風による
被害が相当数発生したようで
す。自然が相手の商売で災害の
想定はありますが、技術を磨き
ながら高品質の生産を目指して
いきたいものです。

さて、議会はこれまでも県・
国への要望活動を強化してきた
ところですが、我々の代表であ

る1区選出の津島代議士が国土
交通大臣政務官兼内閣府大臣政
務官に就任した機会を捉え、12
月議会終了後に行政側と議員が
合同で、堤防・保安橋・TTP・
農業関連補助金についての要望
活動を行つてまいりました。今
年は町議会議員の選挙、参議院
議員の選挙の年でもあり、選挙
権も18歳に引き下げられること
になっています。自分たちの一
票で町政も国政も方向が決まる
はずで、議会として政治への
関与を深めて、より良い町を、
より良い国をつくっていきたい
ものだと考えます。私たち議員
は行政と十分な意思疎通を図
り、地域のさまざまな声を行政
に届けながら、小さくても住民
が暮らしやすいまちづくりのた
め努力してまいります。

結びにあたり、迎えました新
しい年が、町民の皆さまにとつ
て健やかで笑顔の絶えない年で
ありますようお願い申し上げます。
議会を代表しての新年のあいさ
つといたします。